

地域連携の取り組み

(府中キャンパス図書担当者連絡会)

赤沢友子 鷹野祐子

(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 図書室

背景：府中キャンパスとは、府中市武蔵台周辺にある都立の医療関連7機関(表)をさす。図書室の連携は1981年に提案され、神経研を中心に1991年冊子版雑誌目録が発行された。1996年から毎年、府中キャンパス図書担当者連絡会を開催し、目録を更新している。

目的：本報告では、過去10年余の連絡会において課題とされた事項を再確認する。さらに2004年に行った利用度調査から、現在の課題を掘り起こす。2003年度に行った新たな取り組みの報告とともに、今後の改善点を検討する。

方法：過去の確認には、議事録・各施設年報などを参考にした。現状の課題については、利用度アンケートを実施した。調査には「質問くん」[1]を用い、Web上で一週間実施した。必要な場合質問紙調査を併用した。無記名回答、項目数は6項目とした。この結果、調査対象利用者(5機関)の約11%にあたる138件の回答データを収集した。

結果：利用者全体構成を図に示した。回答者の59%がキャンパス内の他図書室を利用できることを知っていたが、そのうち46%は利用していなかった。文献複写サービスの必要性については、全体の79%が「必要」と回答。2003年度12月から3月に神経病院に対して試行的に実施したキャンパス外への文献複写依頼では、依頼が12件あった。「他施設の図書室について感じること」の項目(複数選択式25個、全回答数413回答)では、「図書館の場所がわからない」と「利用方法がわからない」が各々82、78回答と最も多く、図書館の組織としてのサービス[2]に関する要望が合計195回答あった。

結論：キャンパス内の図書室では従来医局に併設されていた図書室の独立化や、職員の常駐化によって、技術職・看護要員へのサービスが改善されてきたが、アンケート結果から利用者への利用案内の周知とパンフレット・案内表示の整備が課題であることがわかった。文献複写を必要としている人が多く、資料の整備と情報への窓口を今後検討していきたい。

[1] 無料レンタルアンケートシステム「質問くん」(合資会社スプリーム)(<http://www.supreme.co.jp/cfm/ask3/Default.cfm>)

[2] 佐藤 義則, 永田 治樹「大学図書館の「サービス品質」評価を構成する局面」『情報メディア研究』Vol.2, No.1, 2003

府中キャンパス7機関
東京都立 府中病院
東京都立 神経病院
東京都立 府中療育センター
東京都立 多摩療育園
東京都立 府中看護専門学校
(財)東京都保健医療公社 東京都多摩がん検診センター
(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所

表 府中キャンパス7機関

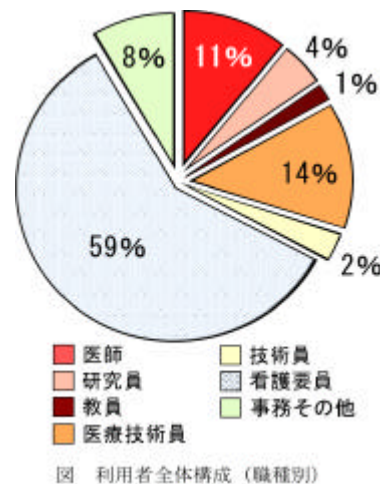


図 利用者全体構成(職種別)